

第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

開催日時	2019年11月7日(木) 19:00 ~ 21:00			
開催場所	市民交流棟2階 会議室1・2	司会		記録
参加者 (敬称略)	委員10名 福祉部長・発達支援課オブザーバー2名			
協 議 内 容				
<p>1.開会</p> <p>2.会長挨拶</p> <p>災害は日頃の防災意識の高さ、日々の意志の高さ、訓練が重要だと感じる。 本日の報告で防災の話があるが、皆さんの意識と共有したい。</p> <p>3.配布資料</p> <p>(1) 会議資料</p> <p>(2) 四国中央市障がい福祉計画の点検評価(案)</p> <p>(3) 障がい児者の家族向けアンケート調査報告書 等(資源開発部会別添資料)</p> <p>(4) その他</p> <p>4.議事(議長)</p> <p><b>【報告事項】</b></p> <p>議長：報告事項①各専門部会及び連絡会から昨年度活動報告を各部会長からお願いしたい。</p> <p>(1) 拠点整備部会</p> <p>資料6・7ページ。部会は月1回。 地域生活支援拠点方針と成年後見権利擁護啓発ハンドブックを今年度完成目指している。拠点整備検討は7ページ。これまで行政に求める役割や機能・整理を提案。 今回は民間事業所に求める役割や機能を整理した報告書をまとめている。 既存資源で対応できる部分は、相談機能・体験機会・緊急時受入は報告書にある機関を活用することで可能。特別支援学校完成に伴い中等部卒業後利用できる職業訓練センターがあればという意見が挙がっている。 市内社会福祉法人の連携協議会があればという提案もあった。6つの社会福祉法人があるが、公益的な取り組みについての情報共有の場が必要という意見が挙がっている。 このような意見も地域生活支援拠点に生かされていくのではないかと。 課題は移動。デマンドタクシー利用に車椅子での乗車ができないことや乗り換えなど。福祉有償運送の実現が意見として挙がっている。今後具体的案を検討。コーディネーター機能を、当市ではどこが担うのかが大事なため今後検討を進めたい。 来年2月に開催される本会で地域生活支援拠点整備案を協議題として提出したい。 また、成年後見権利擁護啓発ハンドブックの作成を進め、本会で示せるよう準備したい。</p> <p>(2) 資源開発部会</p> <p>部会は月1回。 活動内容を報告。一つ目は家族向けアンケート報告書作成。二つ目は当事者向けアンケート。 四国学院大学生5名の聞き取り調査と郵送で調査実施。集計中。対象者は手帳所持者から無作為抽出。330件郵送。8月30日から約1カ月間で159件回収。</p>				

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

学生の聞取調査を9月17日から9月20日の期間で通所事業所、デイケア等13箇所とグループホーム2箇所で調査。この期間で聞き取れなかった部分は各部会員で9月の末まで調査。回収159件の内、学生調査数103件、事業所56件。

先日、四国学院大学にお礼に何うと、学生にとって良い経験となったとご意見を頂いた。交流会に教授参加。学生の普段の様子が見られて良かったというお話があった。学生のアンケート調査実施。「移動が大変」「楽しかった」「様々な施設に行けて実際の現場に触れられた」「当事者の困りごとを知る機会となった」という意見があった。「貴重な経験ができた」という回答が多数だった。

部会からは、「学生がアンケート調査の質問がうまくできていなかった」という声もあり、学生への説明不足が反省点としてあがった。

今後は当事者向けアンケート結果実施。その後、支援者・家族・当事者アンケートの三つから課題分析を2月本会に報告したい。

家族向けアンケート結果報告。資料別添。

相談窓口は、69%知っているという回答。4人に1人は把握していない。特に身体障がい・精神障がい家族が多かった。「分からない」「無回答」も多く、サービスが複雑で理解に至っていないことが推測された。困った時の相談窓口を明確にする必要あり。安心して当事者を任せるには支援者との関係性や技術が重要。

利用希望サービスは、多く挙がっているのが短期入所・生活介護・自立訓練など。ニーズ対応は施設数や支援員不足の改善必要。家族の悩みや心配事は「親なき後の生活」が多い。将来、子どもが生活していくためには福祉制度やサービス充実だけでなく、就労や雇用対策にも期待が寄せられている。今回調査で就労者は2割にも満たず、企業の障がい者理解や配慮が強く求められている。地域活動参加のしづらさ、災害時の避難時理解、見た目分かりにくい障がい故の生きづらさを感じている人もいるようだ。研修や啓発の実施だけでなく、障がいのある人もない人も参加できるイベント実施など地域で障がい者と触れ合う機会を設けることで心理的距離を縮めることも必要。

結果4項目挙げる。

1 障がい福祉サービスと相談先を分かりやすく情報提示するポータルサイト確立。

2 ニーズに答えられる施設の増加と人材確保・育成。

3 障がい理解や配慮があり、多様な働き方ができる企業を増やす支援

4 障がい問題が身近になる仕組み作り。

情報・事業所不足は、支援者アンケートでも重なる。当事者も含め三つのアンケート結果を踏まえて最終方向性を出したい。

### (3) 地域共生部会

資料9・10 ページ。部会は月1回。

「地域で生きるを支援する」を目標に、関係機関連携強化のため支援者研修会を開催。2019年9月5日19時から21時福祉会館4階で研修テーマを「誰もが生涯を安心して送るために今考えること」と題して当市の課題、支援者の視点について話題提供した後、テーマ別のグループワークで座談交流会を行った。150名程の参加。

医療・福祉・介護・教育どの分野からも参加あり。地域共生・介護と障がい福祉・教育機関連

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

携・引きこもりや発達障がいの相談先の理解不足、土日や夜の余暇支援、ニーズに対応できる提供場所不足、障がい福祉から介護保険に変わることによる利用負担額が変わる問題などが挙げられた。

また、パンフレットがありすぎてどれを見ればいいのか分からない。総合的な市の福祉パンフレットの提案などがあった。

支援者不足について、学校で障がい福祉教育を積極的に取り入れてもらい、今後の従事者の育成を含め早い段階から興味を持つような育成手法検討も必要との意見もあった。

次に、住民理解の促進のため、防災学校「私の防災対策私の町の防災対策」の開催を決定。開催日は、2020年2月29日10時から15時。場所は、市民交流棟と防災センター、愛媛銀行の駐車場。

参加見込みは300名程度。内容は、会場として愛媛銀行の協力を得られたことで愛媛銀行の駐車場にて市内の障がい事業者等の出店・マルシェを行う。また、各体験をできるだけ多く回れるようスタンプラリーを開催。災害体験は常時体験できるよう検討中。一般企業等に協賛品を募り、スタンプラリーの景品または当日の備品として活用する予定。

### (4) 相談支援専門員連絡会

資料11ページ。部会は月1回。

協議会各部会進捗状況の共有。相談業務Q&Aの作成に向けて、質問内容の検討。新規事業者の紹介。主任相談支援専門員（地域リーダー）養成研修についての検討・推薦などを行っている。計画、モニタリング、国保連への請求や加算についての学習会。相談支援の質の向上に向けた困難事例の情報共有、事例検討。災害時個別支援プランの進捗状況の確認。国の研修制度の見直しによる協力体制の検討を行った。

議長 : 以上で説明が終わった。質疑があれば発言を求める。

意見 : 拠点整備部会の報告だが、デマンドタクシーができて10年くらい。車椅子の方が利用できないことや乗換時の不便さの声はずっと挙がっている。担当窓口に行けばそれはできないといつもはじかれるので、デマンドタクシーのご理解ができていないのではないかと。

質問 : デマンドタクシーは、利用者の課題と実提供者側が考えている課題のすり合わせが必要だが、そのような協議の場はあるか。

回答 : 再来年度には、障がい者福祉計画を立案する。そこに協議の場があり、その項目で交通等の項目がある。

意見 : 協議などでは今回アンケートが根拠となるのでは。デマンドタクシーは精神障がい者の利用が多いが身体障がい者の利用が少ないのでは。理由は使い難いため。福祉有償運送は費用的な問題がある。そのような事業者の意見も提供者側の意見も取り入れる必要があるが、我々は当事者の声を大切にすべき。

意見 : 福祉有償運送が実現したとしても移動問題が全部解決するわけではない。山間地域への対応等全体的での検討が必要。負担軽減等の課題もある。

質問 : 拠点部会の報告について。相談の情報集約・共有・発信などの機能はあるのか。

回答 : 窓口はあるが窓口が多いことが課題。拠点整備には窓口集約化の検討も必要かと

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

- 思う。他部会との連携し検討を進める。
- 意見 : 資源開発部会のアンケート。相談方法の選択にメールや FAX があるが、アプリでコミュニケーションの代替え機能も多くある。選択肢に、そのようなものあれば考察の幅が広がった。また、考察では、障がい者と健常者との比較があれば、地域と社会と接点が出てくる内容になると思う。
- 意見 : 地域共生部会の防災学校だが、個人所有のテント等を一つのパッケージとし、避難所に個人所有の防災グッズを活用するモデル設置などはどうかと思う。
- 意見 : 日本の避難所は劣悪であると新聞で見た。改善のためにいい案だと思う。
- 意見 : 最近の災害例では長期化する所が見受けられるので避難所の環境は重要。障がい者等はより配慮が必要。長期にわたる環境作りが求められる。
- 意見 : 普段からイメージできれば精神的安定に繋がるのではないか。
- 意見 : 馴染みあるものを利用することで安心する方が多い。
- 意見 : 当事者目線で意見を。障がいも見た目では分からない場合、伝えても分かってもらえるのだろうか不安に思う。どのように対応するのかがあったらいい。
- 提案 : 障がいがあることの伝え方は難しい所ではあるが、色々方法はある。非常の持ち出し袋にヘルプマークを活用できるのではないか。自分で説明できないけれども、リュックにヘルプマークをつけることによって、言葉に出さなくても誰かが気付いてくれるかもしれない。
- 意見 : 先日、支援者研修会でヘルプマークを説明したが、支援者でも知らない方はたくさんいた。様々なイベントで啓発としては行っていったらいい。
- 議長 : このような意見も盛り込みながら次のイベントで繁栄できたらいいと思う。アンケートも啓発や身近な仕組み作りに繋げてほしい。今回の報告は、各部会の取り組みがリンクする部分も非常に多かった。連携していくことの重要性を感じた。以上で質疑を終了する。
- 議長 : 次に報告事項②2019年四国中央市就職準備フェアについて。
- 報告 : 資料 12～13 ページ。実行委員会を 8 月より月 2 回開催。副題を～このまちで働く気持ち応援します～。とした。主催は 2019 年度四国中央市就職準備フェア実行委員会。開催日時、場所等は記載のとおり。参加者は、障がいのある方等で就労を希望する方など合計約 100 人を目標。各事業所が参加しやすい時間帯とした。内容は、基本例年どおりだがスーツやネクタイを用意して、身だしなみを整えて面接を体験してもらう企画を入れた。現在は、周知方法を検討中。多くの方に参加して頂けるように進めている。
- 議長 : 以上で報告が終わった。発言を求める。
- 質問 : 講演する事業者は大規模ところが多い。小規模で就労されている方のお話を聞く機会はできないか。
- 回答 : 今回は難しいが、今後、開催時期を考えて声かけをしていくことで可能性はあると思う。
- 意見 : 当事者目線で考えると、大規模な所はしんどいなあとイメージするのではと少し

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

- 意見 : 危惧している。
- 意見 : 家族的経営の方がよりオーナーと近いし、大企業だと異動があるから難しいイメージがあるのかもしれない。
- 回答 : 抵抗感があるような内容にはならないようにしたいと思う。
- 意見 : 当事者向けという色合いが強いと感じるが、年々このフェアの認知度は上がっているので企業が参加する情報交換の場に発展していけたら。
- 意見 : 社会情勢は変わってきている。事業開始当時、求人票があまりなかったため、入口強化の意味合いが強かった。最近では、雇用したいという所までできているけどノウハウが分からないという企業側の変化に対応できる事業展開が必要。
- 意見 : 資源開発部会のアンケートで、「ご本人の就労のために必要な支援」では、ソフト面の支援や定着支援に期待されていることが分かる。ハード面よりソフト面に注目していくのは一つ。企業サポート・福祉サポートなどを合致していく仕組みが必要。
- 意見 : 一般企業に障がい者雇用で仕事をしているが、通院しないといけない人が通院日をお休みにできず、有休を超えて欠勤扱いになる場合がある。通院等への配慮などが今後の課題だと思う。
- 意見 : 母親が、子ども病気でも休めないときと同じように感じる。企業としては、まだそこまでの段階ではないのかもしれない。理解促進が必要。
- 意見 : 就労定着を考えた場合、通院の必要性への理解不足があるかもしれない。その思いを伝えるために、福祉・医療関係機関がある。
- 意見 : ご本人努力だけでは成しえないものを我々は支援していかなければならない。
- 議長 : 以上で質疑・意見交換を終了する。次に報告事項③四国中央市障がい福祉計画進捗状況について。
- 報告 : 資料は、四国中央市障がい福祉計画（第5期）の点検・評価（案）。障がい福祉サービスの利用見込量等を点検・評価することが目的。概ねの結論は表紙のページに。成果目標は変更なし。障がい福祉サービスは、就労定着支援を想定より見込増。計画相談も利用見込増。障がい児通所支援は、児童発達支援の利用見込量の増加。児童発達支援事業所の新たな設立が大きな要因と推測。放課後等デイサービスは、これまで倍々で利用量増だったが、微増傾向になると推測。地域生活支援事業は、訪問入浴を利用増としている。
- 議長 : 以上で報告が終わった。質疑があれば発言を求める。  
(意見なし)
- 提案 : 来年度は障がい福祉計画第6期の計画立案年。資源開発部会のアンケート結果は、重要な市民の意識だと思う。デマンド交通の意見交換もあった。参考にしたい。
- 意見 : 実感と数値は必ずしも一致するとは限らない。個人的感覚だが、今後利用したいサービスが例えば施設入所や生活介護など利用ができずB型を利用しているのではと思う。身体障がいがある方のサービス利用には、医療的機能が備わっている必要が多くなる。療育手帳も、知的障がいのノウハウだけではいけない。居住サービスには、高齢化に伴う医療ニーズが高まり、医療との連携が欠かせない。

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

- 意見 : しかし、機能を満たした事業実施は困難。このようなことを実感している。  
行政も、短期入所・医療的ケアのニーズがあることを認識して課題を持っているが、ニーズに対応するには、行政だけではどうにもならない。医療機関や福祉サービス事業所との連携で体制整備していく必要がある。本日の意見などは重要である。反映させていきたい。
- 議長 : 以上で終了。次に報告事項④四国中央市成年後見制度利用促進基本計画（案）の報告を求める。
- 報告 : 資料 P14～15。基本計画は「成年後見制度の利用促進に関する法律」が平成 28 年 5 月に施行され、国の成年後見制度促進基本計画が平成 29 年 3 月に決定されたことを受け策定することとなった。国の指標には全国 1740 市町が令和 3 年度までに基本計画を作成するという目標を掲げている。  
本市は平成 30 年の 5 月から市内の職員で担当者会を立ち上げ、その後、本会委員や地域包括ケアネットワーク委員に加え司法書士も参加し、「四国中央市成年後見制度利用促進基本計画策定検討会」を立ち上げ、令和元年 10 月 2 日に基本計画(案)が承認された。内容は、計画の根拠や期間、基本目標、重点的に取り組む施策を盛り込んでいる。令和 2 年の計画策定目標。スムーズなスタートが切れるように現在準備を整えている。
- 議長 : 質疑があれば発言を求める。
- 質問 : 成年後見制度を啓蒙しているのは当事者と家族だけなのか。社会生活を送っていて、後見制度がないと困る人は誰なのかとなった時にサービス提供者側にはわからない。例えば医療機関が来られた時に判断がつかない。また、当事者は困っていないと感じる。提供者側にどういう風にアプローチをかけようとする計画なのか。
- 回答 : 計画では、周知ができていない、認知されていない課題を挙げ、相談・周知・広報等も盛り込み、それを中核的に機能するようなセクション設置を考えていこうということになっている。
- 質問 : 保護者がいる場合などは、本人は全然困っていない。そういう場合利用はあるのか。
- 回答 : 成年後見制度は、意思決定が困難な人を支援する体制作り。支援者は、第一は親族。それが困難な場合、第三者が支援するのが成年後見の考え方だと我々は認識している。
- 質問 : 成年後見制度が必要など思われる人が、支援者がいなくてトラブルが起きているということか。
- 回答 : 身内が居ても家族の力が弱くなっている。支援者がいても、経済的な管理等は困難。そのような場合に後見の相談があり検討していくことになる。身内がなく行政が申し立てることもある。
- 意見 : 切羽詰まった状態で利用を検討するのではいけない。早い段階から啓蒙していく必要があるのでは。
- 提案 : そのような意見を踏まえ、中核的機能を果たすセクションができれば、より具体的な内容を詰めていく。

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

- 意見 : 議論の通り、当事者に密に関わっている医療機関や事業所のスタッフが本来ならば後見人がすべきことを抱え困っている事例もある。金銭管理やクーリングオフなどを支援者が行うことも。
- いづれにしても、広報や啓発は必要。知らないで頑張っている事業所スタッフが多いと思う。後見に繋ぐ仕組みを早く確立する必要がある。
- 意見 : 誤った認識をしている人も多い。後見人等がいれば、全てを行ってくれると考えている支援者もいる。医療行為の同意は一切できないし、日用品の購入等々も成年後見人にはできない。家族の代わりだと思って、使おうとすることによってトラブルが起こることもある。成年後見制度がどういった制度で後見人ができることが何なのかを伝えていかないといけない。
- そして、利用者がどのようにメリットとして実感でき、現実生活に沿った中身にしていかなければならない。
- 意見 : 家族関係が難しい時代。いざというまえに制度を理解できる啓蒙活動が必要。
- 意見 : 任意後見制度もある。自分が理解や判断できる段階からどの制度を利用していくのかの啓発もが必要。
- 提案 : 成年後見制度の普及啓発は、各部会のイベント等でお力添えを頂きたい。
- 質問 : 未成年後見はあるのか。
- 回答 : 未成年後見はある。今後検討は必要。
- 議長 : 以上で質疑応答を終了する。これで議事を終わる。

### 5. その他

- 提案 : 『太陽の家』施設更新について。内容を2月の自立支援協議会でこの内容についての行政として提案する。
- 第6期自立支援協議会について。本会は現在第6期を迎え様々な意見・提言を頂いた。任期2年。令和2年3月まで。次期組織の構成図(案)を示す。常任委員会で協議したもの。次回会議で意見を頂く
- 報告 : 社会福祉法人光と風利用者のNAMY(なみい)さんがパラリンアート世界大会2019で準グランプリ及び尾木直樹賞受賞。この大会は、障がい者アートのワールドカップのようなもので今年度は39ヵ国と1地域で合計774作品の応募があった。彼女も皆さんの手元にある資料にある作品を応募した所、準グランプリを受賞。10月16日に東京都で行われた授賞式の模様が、10月20日放送の日本テレビ系番組で取り上げられた。11月6日に市長の表敬訪問を行い、受賞報告。11月18日より、市役所で懸垂幕掲示。市民交流棟2階に作品展示も行う。その際に彼女のプロフィール及びパラリンアートの存在を広く知って頂きたいので啓発も兼ねて展示。
- 受賞を記念し、NAMYさんの個展を開催する。時期は、2020年1月頃より、しこちゅ〜ホール、ユウホール、川之江ふれあい交流センター等を使って行う予定。ぜひご覧いただきたい。
- 報告 : 建て替えを予定している社会福祉法人澄心の「ぼれぼれウィンカル」だが、児童

## 第6期四国中央市自立支援協議会 第7回会議 議事録

発達支援・放課後等デイサービス、就労移行支援、就労定着支援それから相談支援を入れて、一つの建物にできるよう計画している。4階建予定。

利用定数は増やしてサービス向上を検討している。

報告 : 次回開催日は、第8回会議は来年2020年2月13日(木)19時から行う。

6. 閉会